

NEWS RELEASE

軽度認知障害 (MCI) 判別ツールの販売開始

～「認知症予防」へ事業参入～

パラマウントベッド株式会社（東京都江東区、代表取締役社長：木村恭介）は、2014年6月1日、「軽度認知障害（MCI）判別ツール」の販売を開始します。

「軽度認知障害（MCI）判別ツール」は、認知症予備軍とされる軽度認知障害（MCI）の状態かどうかを判別するものです。本ツールは、インターネット上のプログラムを用いて、実施者と対象者の対話形式で行うもので、これまで医師や有資格者でないと困難とされていた判別を誰でも簡単に行うことができます。実施時間は約10分と短時間ながら、実施終了後すぐに97%の正確性*で判別します。結果は0～100の指数で表わされ、49.8未満であるとMCIの疑いがあることが分かります。テスト結果は全てデータベースに保存されるため、過去の数値と比較するなど、長期的に対象者の経過をみる事が可能です。

本ツールは、アメリカで研究・開発された認知機能チェックの日本語版です。当社は、このツールの日本国内販売総代理店である株式会社ミレニアと業務提携し、病院やクリニック、自治体などへの導入を目指します。事業開始初年度の販売目標は、100施設です。

MCIは認知機能の低下が見られる最も初期の状態を言います。そのままにしておいた場合、認知機能の低下が続き、約半数の割合で認知症になる可能性があると言われていています。しかし、適切な生活習慣改善などの予防策や治療により、認知症への進行を防いだり発症を遅らせたりできることが、最近の研究で分かっています。MCIは早期に発見し、専門医へ相談することが認知症予防において重要です。

本ツールを今月31日から2日間、東京国際フォーラムにて行われる「第15回日本認知症ケア学会大会」（<http://www.chihoucare.org/>）にて展示、紹介いたします。

主な特長は別紙のとおりです。

*Shankle, W. R. et al, (2005), PNAS, 102(13), 4919-4924

本件に関するお問い合わせ先
パラマウントベッド（株） 広報部 高橋・熊谷・興田
TEL：03-3648-1111 FAX：03-3648-5781

■軽度認知障害判別ツールについて

1. 内容

医師などの有資格者でなくても、約 10 分間の質問をすることで、加齢に伴う「もの忘れ」と認知症の前段階とされる「軽度認知障害 (MCI)」の状態を判別することができます。テスト実施者と対象者の対話式で行われ、実施者が対象者の回答に応じ画面をクリックするだけで判別できます。テスト結果は、対象者の性別、年齢、テスト回答パターンなどから人口統計学的に自動算出され、認知機能指数で表わされます。

2. 正確性

米国国立老化研究所が推奨する国際的認知症診断ツールであるCERADバッテリーをベースに米国Medical Care Corporationが研究・開発した認知機能チェックテストです。米国内で行われた正確性検証の結果、97%の精度、94%の感度、89%の特異度を示しました*1。本ツールは、その日本語版で、福岡大学山田医師グループにより行われた正確性検証の結果、原版同等の精度を示しています*2。



*1 Shankle, W. R. et al, (2005), PNAS, 102(13), 4919-4924

*2 認知度チェックテスト (Medical Care社製) によるMCIの早期発見 (第一報) 臨床と研究 2007, 84(8):122-130

3. 導入・運用方法など

インターネット環境があれば簡単に導入が可能です。テスト実施者の資格は必要なく、運用も簡単です。

ソフトウェアの導入	不要
実施者の資格	不問
テストの実施	画面に従うだけ
テストの採点	テスト後自動で行われる
採点後の評価	テスト後自動で行われる
結果レポート作成	テスト後 1 クリックで出力可能
データ蓄積・出力	いつでもCSV形式で出力可能

■軽度認知障害 (MCI : Mild Cognitive Impairment) とは

認知機能に加齢に伴う物忘れとは異なる問題が見られるが、日常生活においては、自立した状態にあることを言います。2013 年に発表された厚生労働省の調査によると、65 歳以上の高齢者の 4 人に 1 人が認知症、もしくは認知症の前段階であるMCIの状態であると言われおり、2012 年時点で、国内の認知症の人は、約 462 万人、認知症予備軍とされるMCIの状態の人は、約 400 万人とされています。

以 上